

# 今を生きる私たちにできることは何だろう

## 1 対象学年 中学1年生

## 2 ねらい

子どもたちは、社会や国語の授業などによって、かつて日本でも戦争があったということは理解している。また、テレビや新聞、インターネットといったさまざまなマスメディアによる報道を通して、現在でも戦争状態の地域があることも理解している。

しかし、そのようなことについて想像したり、考えたりする機会は少ない。また、身近な戦争体験者も少なく、話を聞く機会も少ないだろう。そのため、戦争を自分たちとは無関係なものだと感じている子どもたちも多い。

本学習では、身近な地域で起こった当時の悲惨な様子を知ることで、自分たちの生活とは無関係ではないことを学ばせたい。また、「焼け跡に立つ虹」が出版された理由を考えさせることで、平和を守るために自分たちができることを考えさせたい。

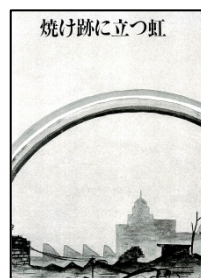
## 3 準備

読み物資料「焼け跡に立つ虹」、ワークシート、愛知県地図

読み物資料「焼け跡に立つ虹」

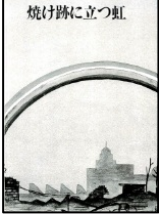
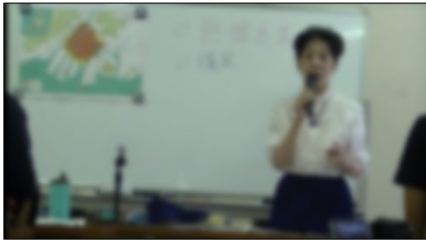
初めて名古屋に空襲があった日（P.25～P.29）

著・出版 愛知県教員組合



## 4 授業計画

時間配分	学習活動	指導上の留意点
15分	1 「戦争」について考える。 (1) 戦争について知っていることを話し合う。 ・「たくさんの方が亡くなった」 ・「食べるものがなかった」 ・「学校へ行かず働いていた」	○ 知っていることを共有することで、自分たちが戦争について、詳細には知らないことに気付かせる。  ○ 意見が出にくい場合は、今まで学習した国語教材を紹介することで、戦争のことを想像させやすくする。 (中学校) 大人になれなかった弟たちに… (小学校) ちいちゃんのかげおくり 一つの花 など

	<p>(2) 「初めて名古屋に空襲があった日」を読む。</p> <p>(3) 資料を読んだ感想をワークシートに記入し、交流する。</p>  <p>【読み物資料 焼け跡に立つ虹】</p>	<p>○ 身近なところで被害があったことをより深く印象づけるために、地図を使い、位置関係を確認する。</p> <p>○ 意見交流を焦点化するために、近くで電信柱が舞い上がったのを見たときの、登場人物の気持ちを想像させる。</p>
10分	<p>2 「焼け跡に立つ虹」が出版された理由について考え、交流する。</p>	<p>○ 主発問に迫るため、筆者が辛い記憶を本にしようと考えたのはなぜかを考えさせる。</p>
15分	<p>3 今を生きる自分たちにできることについて考える。</p> <p>(1) ワークシートに記入する。</p> <p>(2) 考えを交流する。</p>	<p>○ 全員の考えをくみ取るため、子どもの様子を見ながら、小グループでの交流も取り入れて活動させる。</p>
10分	<p>4 教員の話聞き、本時の振り返りをする。</p> <p>(1) 教員の話聞く。</p> <p>(2) 授業の感想と振り返りを書く。</p>	<p>○ たくさんの方が平和を願う思いで活動していることに気付かせるために、かたりべ学習会の映像を紹介する。</p>  <p>【かたりべ学習会の様子】</p>

今を生きる自分たちにできることを考えよう

## 5 実践のまとめ

### (1) 戦争について考える

はじめに、「戦争について知っていることを話し合おう」と促すと、予想していたよりも反応が少なく、小学校のときに扱った国語教材の話題も出なかった。こちらから国語教材の話をして「そういえばあったな…」という程度の反応であった。しかし、「焼け跡に立つ虹」を読み聞かせると、雰囲気が一変した。身近な地名がたくさん出てくるため、子どもたちにとって、想像力を働かせやすい教材であったためか、当時の悲惨な状況を想像しながら読み、感想を書くことができた。

今、私たちが住んで"いる近くで"こんなにも"悪いこと"が"おきていたなん"て知りませんでした。自分の目の前には"ぼたん"が"落とされた穴"があったり、目の前で"遺体"を見てしまったりして、"おん"は"また"子ど"も"な"めに"こんなこと"に"あ"ってしま"う"なんて、"ほら"と"一"か"ち"い"くら"だ"な"と"思"いました。

私は今日まで名古屋にも空襲があったなんて知りませんでした。だから「日本に空襲があって広島や長崎の人はたいへんだってんだな」と言う軽い感じの思いしかありませんでした。でも今日、名古屋にもあったことを知って自分には関係ないなんて思っちゃいけないなと思いました。

【ワークシートの記述】 （「初めて名古屋に空襲があった日」を読んで）

### (2) 「焼け跡に立つ虹」が出版された理由を考える

「どのような気持ちで出版されたのだろうか」と問いかけると、子どもたちは、はじめ不思議そうな顔をしていた。本が出版された経緯や、背景について考える経験がなかったのだと思う。はじめは漠然とした意見が多かったが、意見を交流することで考えが深まった。

#### 【授業記録】

T : 思い出すのがつらい思い出だと思わない?なんでこんな本を作ってるんだろう?

S1 : もうやらないように…

T : 本を作ると、もう戦争をしないのかな?作っている人の気持ちを考えてみよう。

S2 : 自分ひとりではできないけど、みんなにこうやって伝えられたら…(戦争をしなくなると思う。)だからこういう本を書いて、もうやるな、って感じで…

S3 : この本は、戦争を体験した人の気持ちを伝えたくて作ってる…

S4 : 戦争で死んでしまった人もいて、それで、(自分たちは)今ここに生きているから、生きていることに感謝して、死なないように、ということ伝えたいんじゃないかと思う。

### (3) 今を生きる自分たちにできることを考える

「自分たちにも何かできることがあるはずだ」という考えが子どもたちの中に生まれ、真剣にワークシートに書き込んでいた。自分の考えをもつことはもちろんだが、人の意見を積極的に聴く機会を作ることで、子どもたちの視野が広がったのではないかと思う。

「そうか、昔の人が自分たちに経験を伝えたように、自分たちも伝えていくことができるね」などと意見を共有しながら考えを深めていく様子が印象的だった。



【ワークシートに書き込みをする様子】

戦争のことをもっと調べて、知ってどんなにおそろしいものなのかを分かっておいたほうがいいと思います。そしてそれを次の入達に教えていつまでも悲しい戦争を忘れないようにしたいです。なぜそれをするかと言うと、「もう二度と戦争をしないように(させないよう)にするためです。いつまでも私たちの前の人を忘れないように伝えてくれたのを止めないようにしたいです。

【ワークシートの記述】(今を生きる私たちにできることは何だろう)

## 6 実践の成果と今後の課題

「焼け跡に立つ虹」を読むことで、子どもたちは戦争の悲惨さを今まで以上に感じる事ができた。戦争を身近な地域で起こった出来事としてとらえ直すことで、「決して他人事ではない」と感じたようだ。また、そのような体験や記憶を語り継ごうとする人の存在を知ること、「自分たちも語り継いでいくことが必要である」という考えをもたせることができた。

私達は一度も戦争を体験した事がない。次の世代も...  
また次の世代も無い。今も戦争を目で見た人は私達に多くはいない  
と思う。だからこそ、今、目で見た人、目で見た文に書いた人に話を聞いて、  
おそろしさを伝えていかねばならない。いつか戦争を見た人は  
一人もいなくなってしまうけれど、その入達に聞いた話で同じ事と  
くり返してはいけいとい伝えていかねば。今も(戦争とか  
よく解からず)にうのみにしていつか、これからしっかりと残して  
かほければいい...と思った。

【ワークシートの記述】(授業を通しての振り返り)

しかし、子どもたちに伝えることができたのは、戦争の記憶のほんの一部であり、このように伝える機会を継続して設けることが何よりも大切なのだと考える。これからも、教員自身が平和への意識を高め、戦争の悲惨さや平和の大切さを子どもたちに伝えることが必要であると感じた。

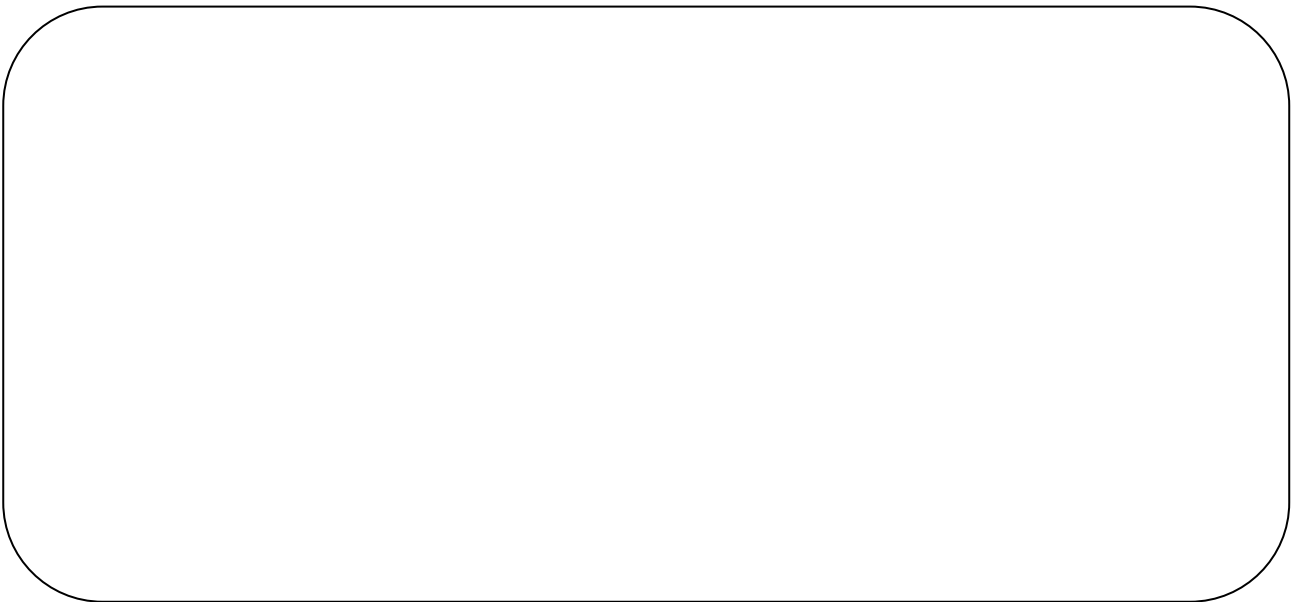
# 今を生きる私たちにできることは何だろう

年 組 番

1 「初めて名古屋に空襲があった日」を読んで



2 今を生きる私たちにできることは何だろう



3 授業を通しての振り返り

